

# 教養教育ニュース No. 3

-20.07.2005-

教職員向け広報紙、「教養教育ニュース」は、教養教育院が責任を負い、FD 専門委員会や実施専門委員会に諮りながら編集し、年に2回程度発行いたします。

## 1. 教養教育の現状と課題

昨年度、教養教育が取り組んだ諸課題の中心は、(1)教養教育における非常勤講師の削減問題と(2)年度評価への対応でした。

(1)教養教育院は、「教養教育における非常勤講師削減への対応策(案)」をまとめ、全学に向けて問題提起しましたが、必ずしも十分に議論を喚起することができず、理解もそれほど得られませんでした。従って非常勤講師の削減は、対症療法的なものとなりました。それでも、英語 A については、TOEIC 受験に配慮した授業を組み込む一方でクラス規模をやや大きくして開講数を減じ、相当数の削減を実現できました。原論・総合科目・保健体育科目でも、かなりの数が削減できました。教養教育院はこの経験を踏まえて、今後どうすれば非常勤講師を適切に組み込んだ教育体制を実現することができるか検討を重ね、「非常勤講師削減問題への取り組みの経過と今後の全学的課題」と「非常勤講師削減に取り組むに当たって、削減対象から除外すべき授業について」をまとめ、教育研究評議会に提出しました(今後、教務担当者会議で検討する予定です)。

(2)教養教育院では、必要な場合には現在の教養教育の枠組みが誕生した平成5年に遡って、可能な限り抜本的な点検を行った上で、16 年度年度計画の自己点検に取り組みました。また、17 年度年度計画の策定に関して、「平成 17 年度富山大学年度計画作成に当たっての意見等」を提出し、全学的な体制を整えて取り組む必要がある項目が相当数あること、各項目に適切な優先順位をつけて取り組むべきことを、目標・評価室に提言しました(残念ながらまだ回答はありません)。

現在、新大学の組織・体制は不透明です。教養教育は、当分の間、各キャンパスで独自に実施することになっていますので、しばらくは、ほぼ現状のままでしょう。しかし、新大学が、平成 22 年度に着手する次期の中期目標・中期計画で、教養教育を共通のカリキュラムで実施するためには、統合後、ただちにカリキュラムの改革に着手する必要があります。五福キャンパスが培ってきた知見を、その際にいかに教養教育の再生に生かせるか、今は、その準備の時です。教養教育院は、自己点検への取り組みの成果を、報告書『教養教育のこれまで・いま・これから(仮題)』としてまとめる予定です。

情報処理科目に関しては、来年度、高校で新教科「情報」を学んだ学生が入学してきますので、学んでいないことを前提とする現在の情報処理科目を改編する必要があります。目下、情報処理教育部会 WG と教養教育院が連携して準備を進めています。これが喫緊の課題です。

### 「適切な成績評価」勉強会を開催します！

第8回教養教育教員研修会(9月27日開催予定)の準備として、UMAP の国際間単位互換制度や GPA、JABEE に関する勉強会を行います。どなたでも振るってご参加下さい。

日時:8月3日(水)13:30-15:30

場所:人文・社会系共通教育棟 3F 学務部会議室

主催:FD 専門委員会・実施専門委員会・教養教育院

## 2. 専門委員会の課題など

### ○立川健治 一実施専門委員長・総合科目部会部会長

実施専門委員会として昨年度から継続して取り組んでいるのは、教養原論の部会・分科会の再編、外国語第二分科会の部会化、英語以外の外国語の開講形態の検討などです。「非常勤講師削減問

題」に関しては、昨年度中の教養教育院の提言を大学の執行部が受け止めて、できる限り非常勤講師に依存しない、しかも教育の質があがり、再編・統合後にも対応できる体制を準備していくことを期待していましたが、残念ながらその取り組みはなされませんでした。したがって来年度に関しては少なくともこれ以上の削減は無理な状態にあります。

再編・統合後の教養教育の実施体制、実施専門委員会の帰趣についても未だに明らかになっていません。おそらく現在のような体制が続けられるのでしょうか、そうであるならばこの1年半でその問題点が明らかになったように、全学教務にかかる事項を検討し、その結果を実行できる権限をもつ組織、教養教育院がかねてから提言している新大学の教育課程の編成と全学教育の実施に関する最終的責任をもつ「大学教育委員会」を設置することが必要だと思います。

総合科目部会長としては、「総合科目(名)見直し WG」の作業を進めるとともに、学内の先生方に幅広く総合科目に協力していただけるような体制作りに向けての検討も進めていきたいと考えております。また「立山マルチヴァース」に関しては、全学的なサポート体制の構築を切望して止みません。

#### ○白石俊輔 一FD 専門委員会委員長

今年の FD 専門委員会の課題は、「適切な成績評価」です。GPA 制、秀(A+)評価、共通試験などの「成績評価アイテム」は、必要ならばその実施を図りたいと考えています。もちろん、こうしたスタンダード化によって現場の自律性がそがれたり、冷たいシステムに学生が不信感を持ったりしないような工夫が必要です。公正でわかりやすく透明性を持ち、なにより学生の学習の努力が本人やクラスメートの効力感(やればできる)につながるような、富山大学らしさにあふれた「成績評価」を築くために、みなさんのご協力をお願いいたします。

#### 3. 部会の課題および部会長としての抱負

##### ○小助川貞次一人文科学系部会部会長

平成 17 年度人文科学系部会部会長を務めます人文学部日本東洋言語文化講座の小助川です。人文科学系部会には、思想と倫理、こころの科学、現代と教育、歴史の世界、文学の世界、言語と文化、芸術の世界の7つの教科部があり、12 の授業科目を持っています。人文学部と教育学部の教員が多く、原籍教員数では自然科学系部会に次ぐ大所帯です。このような大きな組織の部会長になるなどとは思いもしていませんでしたので、先生方のご協力をいただきながら、なんとか職務を全うして行きたいと考えています。

これまではどうしても研究中心の生活でしたが、最近、日常生活を含めて自分の経験を活かした学生の支援方法があるのではないかと考えるようになりました(そういう年齢になったのかもしれません)。相変わらず、授業は上手にできませんが、教養教育は自分を成長させてくれる大切な舞台だと思います。なんとか自分の経験を活かしながら取り組んで行きたいと思います。どうかよろしくお願ひします。

##### ○志津田一彦 一社会科学系部会部会長

平成 17 年度から社会科学系部会長を務めさせていただきます。社会科学系部会としましては、どのような専門分野に進まれるにしろ、現代のような政治経済の変動の時代に、社会理論、法と政治、産業と経済、地域と生活などの側面から、バランスのとれた良識ある社会人として求められる、社会科学的なものの見方や考え方を体得できることを目指します。学生アンケートなども実施し、教養教育の講義担当者の意識改革を図っており、また、現在の全学出動方式の弱点を克服できるサポート体制・組織の充実化も考えていく必要があります。これらは、教養教育実施専門委員会などの横断的な委員会の場で検討していくべき問題だと思います。先生方のご協力をよろしくお願ひいたします。

##### ○篠原寛明 一自然科学系部会部会長

H17 年度自然科学系部会長を務めます工学部物質生命システム工学科教授の篠原です。自然科学系部会は、地球と環境、生命の世界、自然の構造、数理の世界、技術の世界、生活の科学、情報の科学の7つの分科会に、理学部、教育学部、工学部から教員が各自の専門性を鑑み参加し、私たちの身の回りの自然科学の大切さ、不思議さ、面白さを学生に伝えるべく教養教育に当たっております。この 10 月の統合、新富山大学の発足後も、当面は各キャンパスでの教養教育が継続されますが、その中で学生の声に耳を傾け、医学系、薬学系の先生方と一緒に今後の自然科学に関する教養教育を話し合

つていくことや、今年度より試行される北陸地区内双方向遠隔授業システムの利用などをぜひ活かすことも考え、より学生を育む教養教育を目指せればと感じております。

#### ○奥村 譲 一外国語系部会部会長

今年度から、教養の英語が少し変わりました。英語 A の4つの授業のうちの2つが、TOEIC 受験を意識した内容のものになりました。また、パソコンによる自習ソフトもより充実しました。TOEIC 等による単位認定を受ける学生数も少しずつ増えてきています。

今後の課題のひとつは、これらの新しい動きと、外国語の伝統的な授業の良さをうまく組み合わせていくことです。ただやみくもに新しいやり方に頼り過ぎたり、社会や学生諸君の求めに安易に応えていくだけというのでは賢明とは言えません。英語教員が、そして富山大学が、大学の教養教育としての英語はどうあるべきかについて改めて考えることが、今こそ重要であると思っています。

#### ○武田昭文 一外国語第2分科会長

7年前に富山大学に赴任したとき、教養教育で英語以外に独・仏・露・中国・朝鮮(更にラテン)と6つもの外国語を学べることにとても印象を受け、なぜか心強く感じたことをよくおぼえています。そして今でもこのことは本校が他大学に対して誇ることのできる特色であると思っています。われわれの分科会も、非常勤削減の要求を受けて、分科会として、また教養教育院と「英語以外の外国語の開講形態改善検討WG」を立ち上げて、対応策を考え続けていますが、外国語教育の性質上、単に開講コマ数の削減とクラス規模の拡大をもって対処することもできず、全学から語学教育の優れた人材を募って常勤のスタッフを拡充する以外にはこの困難を乗り切る道はないのではないかというくらいまで追い詰められています。しかし、それはそれとして、大声をあげてクラスを歩き回る外国語の授業を悲壮感を漂わせてやるわけにはゆきません。一人でも多くの学生に未知の外国語と出会う楽しさを知ってもらうために、そして自分も彼らと楽しむために、早く何とかよい打開策を見つけたいものです。

#### ○布村忠弘 一保健体育系部会部会長

保健体育系部会は全員が教育学部の所属であり、少人数でコミュニケーションが取りやすく、教養教育の負担についても共通の理解が得られています。しかし、少人数であるだけに定員が1人減ってもその影響は大きく、部会発足時に15名だったのが現在は12名となり、かなりの負担増となっています。新しい機構ができたことにより、教養教育の担当を考えた人事が行われることを期待しています。

運動は栄養と同じように人間にとって必須のものであり、スポーツを享受する能力、楽しむ能力は、健康な人生を送るために基本的な能力と考えられますが、日本人に備わっているとは言い難く、教養教育としての意義も大きいものがあります。この変革の機会に、さらにニーズにあったものに更新すべく、授業内容、実施形態等に検討を加えていきたいと考えています。

#### ○渡邊 信 一言語表現教育部会部会長

言語表現科目の目的は、客観的な事実、自分の意見や意図を、口頭または文書での的確かつ効果的に表現する能力を向上させることです。同じ事柄に対してもそれから何を表現するかは千差万別です。エッセイ、話し方、討論、講演など教員により授業の力点が異なりますが、きめ細かな指導を心がけています。授業内容について学生からの授業アンケート結果は良好です。これまで報告書「げんごひょうげん」や教材資料集を発行するほか、教員研修会などを実施してきました。少人数教育のため受講希望に沿えない場合が多いので、新たな担当者を求めています。

#### ○石原外美 一情報処理教育部会部会長

情報処理教育部会長を仰せつかっております、工学部の石原です。

本部会は、新入学生に対して、授業・実習を通じて、大学教育で必要最低限の情報処理技術を体得してもらい、今後の大学における勉学に情報処理技術を効率的に活用してもらうことを目的として、活動を行っております、本部会では、現在、以下の内容を検討しております。

(1) 平成 18 年度から高校で新しい情報教育を受けた学生が入学してきます。高校での教育内容、並びに学生のレベルは多様であり、これに対処するために、初心者コースと普通コースの二つのコースを用意するなどの対処が必要と考えており、その準備を進めております。また現在のクオーター制授業か

らセメスター制授業への移行も検討中です。

(2) e-learning 教材の開発と提供をシステム的に実施し、自習により、学生が学習効果を高められるよう、環境整備を図っております。

(3) 現在実施している授業評価アンケートの分析結果を教員にフィードバックさせて、教員の FD 活動を組織的に進めております。

以上情報処理教育部会の活動の一端を述べました。忌憚の無いご意見をお待ちしております。

#### ○末岡 宏 一原論等連絡会代表

原論演習・コロキアムは、原論などの枠組みに収まらない話題を扱う授業です。横山先生の「ドラえもん学」コロキアムなどユニークな授業があり、教員と学生がお互いに興味のある話題を楽しみながら授業を進めています。以前は多く開講されていたのですが、担当する先生方が転出されたりして、コロキアムだけとなっています(今年度、前期7コマ、後期4コマ開講)。

原論演習は単位を認められ、他で開講されていない分野(外国語科目にない語学、体験学習など)が当てはります。コロキアムは、いわば単位認定が却って授業の魅力をそぎかねないもので、ユニークな分野(「ドラえもん学」「競馬学」など)や、出席を課すことが相応しくない授業(「世界の映画」「TOEIC自己学習システム紹介」「環境モニタリング」)です。

興味のある方は、是非、人文学部末岡(sueoka@hmt.toyama-u.ac.jp 内線 6189)までご相談ください。

#### 4. 専門委員会委員および教養教育院所属教員名簿

実施専門委員会(☆-委員長)					
松崎一平	教養教育院	小助川貞次	人文科学系部会	渡邊 信	言語表現教育部会
山田 茂	教養教育院	志津田一彦	社会科学系部会	立川健治☆	総合科目部会
岡村信孝	人文学部	篠原寛明	自然科学系部会	末岡 宏	原論演習等連絡会
吳羽 長	教育学部	奥村 讓	外国語系部会	オブザーバー委員	
中村和之	経済学部	志津田一彦	社会科学系部会	金森 寛	教養教育担当副学長
金坂 繢	理学部	布村忠弘	保健体育系部会	白石俊輔	FD 専門委員会委員長
小平憲一	工学部	石原外美	情報処理教育部会	武田昭文	外国語第二分科会長

\*実施専門委員会は、教養教育院代表、各学部教務委員会委員長、各部会部会長等で構成されています。

FD 専門委員会(☆-委員長)					
白石俊輔☆	教養教育院	五嶋孝仁	工学部	坂 幸夫	言語表現教育部会
松崎一平	教養教育院	稻垣応顕	人文科学系部会	田代発造	総合科目部会
林 夏生	人文学部	永井節夫	自然科学系部会	オブザーバー委員	
吉見昌弘	教育学部	加藤扶久美	外国語系部会	金森 寛	教養教育担当副学長
松井隆幸	経済学部	水谷秀樹	保健体育系部会	古田高士	教養教育院
渡邊 了	理学部	西野精一	情報処理教育部会	恒川正巳	教養教育院

\*FD 専門委員会は、教養教育院代表、各学部代表委員、各部会代表等で構成されています。

...

教養教育院(☆-院長)					
金森 寛☆	理学部	情報処理教育部会	松崎一平(主監)	人文学部	総合科目部会
古田高士	理学部	情報処理教育部会	山田 茂	工学部	総合科目部会
白石俊輔	経済学部	自然科学系部会 FD 専門委員会委員長	オブザーバー委員		
恒川正巳	人文学部	外国語系部会	立川健治	人文学部	実施専門委員会委員長